

第1学年 生活科学習指導案

指導者 教諭 桐田 照美

1 単元名 なつと ともだち～なつの くうきを かんじよう～（教育出版）

2 単元について

- (1) 本単元は、学習指導要領の内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を受けて設定した。

児童は本単元までに、春の公園や校内の散策を通して、様々な発見や友達とのかかわりを体験している。また、春から夏にかけては、梅雨を迎え、天候や気候の変化を体感できるようになっている。そこで、春からの活動の継続性を大切にしながら、春の活動の経験を生かし、子どもたちの「草花や生き物の様子を調べたり確かめたりしたい」という思いを中心に据えて活動に向き合うことができるようにしたい。それによって、物事を比較したり、時間的な変化の中でとらえたりするような見方の基礎を身につけさせたい。

また、天候条件のいいとき水や土、砂やシャボン玉遊びなど、体全体を使って夏らしい遊びを工夫して楽しむことができるようにしたい。それにより、自然や物への親しみを味わわせ、遊びに没頭する体験をさせたい。試行錯誤しながら何度も繰り返し試す活動を通して、児童は自然の不思議さや面白さに気付き、身近な自然や物を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり出すことが考えられる。このことで、科学的な見方や考え方の基礎が養われることになると考える。さらに、今回の学習を、秋の自然を使ったおもちゃづくりや2年生の生活科、3年生以降の理科学習に生かすことができるようにしたい。

- (2) 本単元の系統は次のとおりである。

1年	1年	2年	3年
「なつともだち」	「あきともだち」	「作ってためして」	「風やゴムのはたらしをしらべよう」

- (3) 本単元にかかわる児童の実態は次のとおりである。（16名）

本学級の児童は、好奇心旺盛で、様々な体験活動に意欲的に取り組んでいる。自然の面白さや不思議さに気付くという視点からは、入学してからこれまでの間に、あさがおを育てている中での様々な発見や砂糖梅の変化、ツマグロヒョウモンの脱皮などを体験してきた。その都度、新たな発見や学びの喜びを各自の言葉や表情から伺うことができた。

<本時に関する実態>

シャボン玉遊びは全ての児童が経験しており、全員が大好きと答えている。

- どんなシャボン玉をつくりたいか。（16名中の人数）
大きい（16） 割れにくい（16） 1回でたくさんできる（14）
いろんなかたち きれいないろ にじいろ 高いところまで上がる
人が入るくらい 出てくるスピードがはやい 二重になっている
- 何（飛ばす道具）を使ってつくったか。
曲がるストロー 市販のもの
- 既習体験からの学び
 - ・ ゆっくり息を吹き込むと、大きなシャボン玉ができる。
 - ・ 小さいシャボン玉は、1度でたくさんできる。

3 仮説にせまる授業での取組

(1) 問題設定の工夫（柱①）

- 本小単元の第1時で、児童に同じ道具（ストローとシャボン玉液）を使って、自由にシャボン玉遊びをさせる。そこで出てきた気付きや喜び、「もっと〇〇なシャボン玉を作りたい」という思いを生かし、使う道具や作り方への関心を高める。
- 本時の導入で、自分の持ってきた道具でどんなシャボン玉ができそうか予想させ、活動に取り組ませる。その際、第1時同様、シャボン玉液という条件は同じにする。

(2) 自分の考えをもち、表現できる手立ての工夫（柱②）

- 活動中の気付きは、できるだけ教師に知らせるようにさせる。
- 活動後に、児童に気付きや思いを発表させる。その際、「これ（持ってきた道具）を使ったら、どんなシャボン玉ができました。」という発表の形式を例示し、それを参考にしながら道具や身体表現を用いて紹介させたい。
- 児童のつぶやきや様子を見取り、児童が活動を振り返る際に生かす。

(3) 身近な生活や自然で科学的思考を実感させる工夫（柱③）

- 麦わらで作るシャボン玉のことを紹介する。
- 本時の最後に「割れにくいシャボン玉」を試演することで、科学の不思議に興味を抱かせ、探求心を高める。

4 単元の目標

- 夏の公園や野原の遊び場で、夏に合った遊びを考えたり、水や土、砂などの自然物やシャボン玉を使った遊びを楽しんだりしながら、夏を感じることができるようにする。
- 春から夏へと季節が移り変わっていくことで、樹木や草花、虫などの様子の変化し、自分自身の生活も変化していることに気付くことができるようにする。
- 暑い夏を元気に過ごすための生活のきまりを考えたり、夏の自然に親しむ活動や地域の行事への参加、家族旅行などについて話し合ったりして、夏休みへの期待感をふくらませることができるようになる。

5 単元の評価規準

①生活への 関心・意欲・態度	②活動や体験についての 思考・表現	③身近な環境や 自分についての気付き
①夏の公園や野原で、水、砂、土を使った遊びに関心をもって遊んだり、興味をもって生き物を探したりしている。 ②思いや願いをもって、砂遊びや水遊び、シャボン玉遊びをしている。	①比べたり、試したり、見立てたりして遊びを工夫している。 ②遊びを工夫したり、友達とかかわって遊んだりしたことを振り返り、絵や文で表している。 ③夏休みにがんばりたいことや気をつけることを考えている。	①春から夏へと季節が移り変わっていることや自分たちの生活が変化していることに気付いている。 ②シャボン玉の不思議さや面白さに気付いている。

6 指導計画及び評価基準（10時間取扱い）

時	学習活動	指導上の留意事項	評価基準及び評価方法
第1次(1)	○教科書「とびら」の写真を見て夏のイメージを広げ、活動への見通しをもつ。	・春の公園での活動を写真を使って想起させる。	気付き①（発言） 春との違いを見つけて、季節の変化に気付いている。

第2時 (5)	○雨の日の校庭を探検し、動植物の様子を観察する。	・雨を気にせず活動できるように、長靴や濡れてもいいような服（ビニール袋で作った雨合羽）を準備しておく。	気付き①（発言・見取り） 雨の日の生き物や地面、空や草花の様子に気付いている。
	○晴れた日に、水遊びや砂遊び、シャボン玉遊びなどをして楽しむ。 ①教師の準備したシャボン玉液とストローで、シャボン玉遊びを行う。	・同じ液と道具を使わせ、シャボン玉遊びを行う。 ・導入で作りたいシャボン玉を出させ、前時の体験を想起させ活動させる。	関心・意欲・態度②(見取り) 意欲的にシャボン玉遊びに取り組んでいる。 気付き②（発言・見取り） できたシャボン玉を見ての気付きや、作り方によるでき方の違いを発表している。
	②各自持ってきた道具や作った道具で、シャボン玉遊びをする。	・持ってきた道具でどんなシャボン玉ができそうか、予想を立てさせてから取り組ませる。 ・自分の道具でどんなシャボン玉ができたかを発表させる。 ・発表の型を準備し、支援を要する児童も発表できるようにする。	気付き②（見取り・発言） シャボン玉の不思議さやおもしろさ、道具などによるでき方の違いに気付いている。 思考・表現②（発表） 持ってきた道具でどんなシャボン玉ができたかを発表することができる。
	いろいろな道具から、いろいろなシャボン玉ができる。		
3 ／ 5	○いろいろな道具を使って、作ってみたいシャボン玉作りに挑戦する。	・紹介された方法を生かして飛ばすようにさせる。	思考・表現②（シート） シャボン玉遊びを通して、思ったことを絵や文で表している。
	○晴れた日に砂遊びや泥だんごづくりをして楽しむ。	・活動内容を予告し、これまでの体験を紹介させる。	関心・意欲・態度①(見取り) 友だちとかかわりながら、土や砂を使った遊びを楽しもうとしている。
第3 次 (3)	○公園で生き物を探したり、遊んだりする。	・春に行った公園でのことを振り返り、約束ごとを確認した上で出かける。	関心・意欲・態度②（見取り） 興味を持って生き物を探したり、遊んだりしている。
	○活動を振り返って、気付いたことや楽しかったことをシートにまとめ、発表する。	・公園での活動の様子を撮った写真を見せ、活動を想起させる。	思考・表現②（シート） 気付いたことや楽しかったことを絵や文で表している。
第1 次 (1)	○夏休みに自分が取り組みたいことや、がんばりたいことを話し合い、夏休みの計画を立てる。	・教科書の写真を見せて夏休みのイメージをふくらませ、夏休みの暮らしについての計画を立てさせる。	思考・表現③(発言・シート) 「夏休みの暮らし」を参考に、夏休みのめあてや計画を立てている。

7 本時の学習（4 / 10 時間）

(1) 目標

しゃぼん玉の不思議さやおもしろさ、作る道具や吹き方によってシャボン玉のでき方の違いがあることに気付く。【気付き】

(2) 展開

過程	時間	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点・評価	備考
つかむ	2	(めあて) いろいろなシャボン玉をつくろう	○前時を振り返り、いろいろな発見があったことを想起させる。	教室
	3	1 自分の道具でどんなシャボン玉ができそうか予想する。 ・たくさん穴が空いているから、一度にたくさんできそう。 ・大きな輪っかだから、大きなシャボン玉が作れそう。 (・家で作ったら…ができました。)	○持ってきた道具から、どんなシャボン玉ができそうか考えさせる。 (大きさ・数・形に着目させる。)	
もとめる	5	2 作る場所や遊び方の約束を確認し、活動場所へ移動する。 ・この間決めた約束は…。	徹底指導 (ポイント) ①人に向けて吹かない。 ②最初は自分の道具で遊ぶ。 ③液や変身の道具は、仲良く使う。 ④「不思議だな」「おもしろいな」「こうしたらできた」と思ったら先生に知らせる。(柱②)	ペランダ前 (共同) シャボン玉液
	23	3 外に出てシャボン玉遊びを行う。 ・ゆっくりふくらまそう。 ・おもしろい形ができた。 ・小さいのが連続で出てきた。 ・ゆきだるまみたいだな。 ・あれ、穴の形にならない。 ・色がきれいだな。 ※活動20分、移動3分	能動型学習 (ポイント) ①自分の道具を使って作っている。 ②友達の道具を借りて作っている。 ○児童の気付きや様子を見取る。(柱②)	
ふりかえる	8	4 持ってきた道具でどんなシャボン玉ができたか発表する。 【言語活動】(設定の意図) 活動を通して気付いたことや自分の道具でどんなシャボン玉ができたのか発表する。 ・大きな輪っかを使ったら、大きなシャボン玉ができました。 ・たくさん穴が空いていたから、小さいのがたくさんできました。 ・最初は長かったけど、全部丸くなりました。	◆気付き②(見取り・発言) ○発表の型を例示し、それを参考に発表させるようにする。 ◆思考・表現①(発表) A基準…予想と比較して発表している。 <B基準に達していない児童への手立て> ○どのくらいの大きさだったか・数はどうだったか、形は…などの発表の視点を与える。 ○予想を振り返って、大きさ・数・形に着目させる。	
	2	(まとめ) 大きさ…いろいろ、数…いろいろ、形…ボールの形		
まとめ	2	5 大きなシャボン玉の実演を見る。 ・作ってみたい。 ・穴がもっと大きかったら、もっと大きなシャボン玉ができるかもしれない。	○大きな輪っかを使って大きなシャボン玉を作って見せることで、児童の好奇心・探究心を高める。 (柱③)	道具(輪っか)